

三島市長選 豊岡さん3選

新人2人破る「発展の基盤確立を」



当選証書を受け取る豊岡武士さん(左)＝三島市役所で

三島市長選が十六日投開票され、無所属現職の豊岡武士さん(七〇)が、ともに無所属新人の元県議宮沢正美さん(六八)＝自民推薦＝と会社役員石井真人さん(三三)を破って三選を果たした。豊岡さんは十七日、市役所で当選証書を受け取り、「責任の重さに身の引き締まる思い。JR三島駅南口東街区の計画をさらに前に進め、持続的な発展の基盤を確立したい」と抱負を語った。(佐久間博康)

市役所で当選証書交付

豊岡さんは争点となったJR三島駅南口東街区の再開発事業の推進のほか、観光振興、市民参加による市庁舎整備の検討を掲げた。保守分裂の構図で、自民党

再開発事業について、石井氏は老朽化した市庁舎建設を併せて考える形での計画見直し、宮沢氏は駅の南北自由通路整備を基本に据えた計画への見直しを訴えたが、支持が広がらなかった。投票率は49・83%で選挙戦となった八年前の54・1%を4・27%下回った。当日有権者数は九万一千三百六十九人。

再開発にめど 実績評価

解説

豊岡さんの三選は、長年の懸案だったJR三島駅南口の再開発事業にめどを付けた実績などが有権者に評価された結果と言える。

再開発事業をめぐっては

「中止させるなら、私を殺してからにして」などと発言して波紋を広げたが、対立候補二人が再開発の見直しを掲げ、批判票が割れたことにも助けられた。観光交流客数が増加し、商業地

の公示地価が初めて沼津を上回るなど中心市街地の活性化も進み、現職への追い風となった。

選挙戦では、花を飾り品格のある街をつくる「ガー

デンシティ」や、健康を核にした「スマートウェルネス」などを進めた二期八年の成果を強調。市議の六割以上の支援を得た上、財界や連合の組織力もフル稼働させて、幅広く票を振り起こした。

ただ、観光振興や公共施設の再編、人口減少対策をはじめ課題は山積している。(佐久間博康)